大阪城
2023 8/21 (月) 14381 5
全港湾 西成分会
ぴよ 6647 4947

「あと2週間ぐらいやネー」道行く人も話しながらも通り過ぎていく。残暑は続くが草むらの虫の声は、秋のけはいを感じさせる。

先日、8/18、アメリカの大統領の別荘で、日韓米の首脳の会談が終ったようだ。

アメリカは、240年ほど前、英と戦争し、独立を勝ちとった。その二つから、中国をめざし、中国貿易で、億万長者が生れたり、米中貿易は重要だった。アヘン戦争で中国に侵略した英に、アメリカはいじめられ、英のいやがらせで、自由に中国貿易ができなかった。

そこで、考えだされた方法が、ペリーの黒船で日本を中国へ行く、大平洋航路の、中継の足場にすることだった。インド回りの、何ケ月もかかる中国行きが、数週間で行けて、英を出しぬくことができる。当時、西海岸と東海岸が大陸横断鉄道もつくられはじめ太平洋国家になってきていた。その後、中国侵略する日本と中国貿易はアメリカのものだてするアメリカとの戦争になり、日本は敗北した。中国はアヘン戦争の植民地政策をはねかえし、力をつけてきている。

その、240年ほど続く米中貿易の大きな舞台が終りの場に近づいているわけで、アメリカは、オレが親分という頭がかわらないので、日韓をまきこみ、自分の昔し流の話をとおそうとするから無理がでてくる。8/18などは古くさい作戦で、新しい時代には合わないようにみえる。

食料品の値上がり、1975年並み高水準続く…
消費者物価指数が前年比3・1％上昇

総務省が18日発表した7月の全国消費者物価指数（2020年＝100）によると、値動きの大きい生鮮食品を除く総合は105・4と、前年同月より3・1％上昇した。電気料金などの値下がりで伸び率は6月の3・3％から鈍化したものの、食料を中心とした値上がりが続いている。

物価上昇は23か月連続。品目別では、生鮮食品を除く食料が5、6月に続き3か月連続で9・2％と、1975年10月（9・9％）以来の高い水準だ。原材料価格や物流費、人件費などを反映した値上げの影響が大きい。アイスクリームなど菓子類は11・5％、からあげなど調理食品は10・0％、外食は5・5％、それぞれ伸びた。

物価上昇の鈍化要因は、主に電気、都市ガス代に対する政府の補助金や燃料価格の下落による効果だ。電気代はマイナス16・6％、都市ガス代はマイナス9・0％だった。政府の補助額が段階的に縮小しているガソリン代が1・1％上昇したものの、エネルギー全体がマイナス8・7％と、全体を押し下げた。

生活の実感により近い生鮮食品を含む総合指数の伸び率は6月と同じ3・3％。ガソリン代は今後も値上がりが想定され、消費者物価を押し上げるとみられる。

8/18(金)（読売新聞）

最近スーパー玉出で50％くらい値上げの商品が目に付きます